山スクールトレッキングⅠ（8期）実技⑤　B班　活動報告

1. **山名・ルート名：**金剛山（太尾道・文殊尾根）
2. **参加者　　：**11名（講師３名、生徒８名）
3. **日程・天候　　：**2023年８月６日（日）・晴天（山頂の気温25-26℃）

4. **行程**

①

◆　8：00　　近鉄　富田林駅（南口ターミナル）集合
◆　8：20　　金剛バス「水越峠」行バス乗車
◆　8：50　　「葛城登山口」下車
◆　9：00　　トイレ前の広場
　➢　松本講師より、本日のルートは易しく道迷いの心配はないのでその分地形を感じよく確認しながら歩くこと、暑いので体調が悪くなった場合すぐに申し出ることとの全体連絡あり(①)。
　※　番号は写真番号

③

②

◆　9：10　　登山道入り口
　➢　現在地を確認後(②)、山行開始（③）

◆　9：15　　太尾道登山口
　➢　ストレッチ
　➢　登山口の角度(④)、少し先に見えている尾根や登山口そばの谷を確認し、地図と照合（⑤）。

④

⑤

◆　最初の尾根（420m地点）～
　➢　進行方向の尾根の角度を確認し、地図と照合。見えている道のみで角度を測ると、見えていない先の道が含まれず角度に誤差が出る場合があるので、次の転換点（ポイント）までの角度を地図で測った上で、実際の道の角度を確認するとよい。
　➢　登山道横の谷（⑥）や、尾根（⑦）を確認しながら歩いた。
　➢　560m地点から道が尾根を巻いていることを地図と実際の道の両方で確認。

⑥

⑦

- 谷池講師から、下りでふくらはぎをよく使うので、登りではなるべくふくらはぎを使わずお尻や太腿の裏の筋肉を使うよう歩き方のアドバイスがあった。

◆ 10：50　最初の登山道合流点　690m地点（休憩）～

⑧

- 合流する登山道や進行方向の尾根などの地形を地図と照合（⑧）。
- 尾根は風が吹くことを確認。
- 進行方向にコルがあることを地図で確認。コルでは谷がどのように迫っているかを確認。
- 途中現在地がわからなくなった際、角度が変わる地点で進行方向の角度をコンパスで測り、その角度が地図上のどこにあるのかを探し、現在地の見当をつけた。

◆ 11：50　太尾塞跡（休憩）

◆ 12：15　六道ノ辻

- 三叉路であることを確認。
- 次の目的地がどのあたりか予測する際、事前に各自 100mの歩数を測っておけば、その 100mの歩数を基に距離を計算し、予測することができる。

◆ 12：35　大日岳

◆ 12：50　山頂（⑨）～

⑨

- 昼食（⑩）
- 今回の帰路ルート、松の木尾根は古い『山と高原地図　金剛・葛城』には載っておらず、最近地図に追加された。一方、タカハタ道のように、事故があり危険な道だと判断され、地図から削除された道もある（ツツジオ谷も推奨されていない）。
- 地形図は全登山道が載っているわけではなく、今回の地形図にも松の木尾根は載っていない。
- 登りは全ての道が山頂に行きつくが、下りの場合、尾根はいくつか分岐があり、道を見極めるのが難しい。

⑩

◆ 13：40　下山開始

- まずは 989m地点を目指す。そこまで地図からは 600mと読み取ることができるが、1 時間で約 3 km歩行可能なので、10-15 分後の 13：55 頃に到着と予測。

◆　13：45　　六地蔵　帰路の安全祈願（⑪）～

⑪

- 六地蔵通過直後、メンバー1名が、登りでも痛みがあった膝が下りで痛みがひどくなったとのこと。予定していた松の木尾根コースは最後に急坂があり、膝への負担が大きいことが予測されるため、コース変更を検討。エスケープルートの予定であった千早本道や、文殊尾根などを検討したが、千早本道は階段が続くため足に負担がかかること、文殊尾根に階段はなく、実技1回目で歩いた経験もあるため、文殊尾根に決定。その時点で、足が痛くなったメンバーにストックを使ってもらう、患部にスプレー式鎮痛消炎剤で応急措置をする、他のメンバーが荷物を代わりに持つなどの対応をした。
- 文殊尾根に向かっていたところ、痛い方の膝をかばって負担がかかっていた反対の足が、石を踏んだはずみでつってしまったとのこと。患部にスプレー鎮痛消炎剤を噴射し、痛みが和らいだとのことだったが、これ以上の歩行は困難と判断、松本講師とともに別行動での下山となった。
- 文殊尾根では、前回の実技で道迷いしやすかった分岐で、どちらの道か確認しながら下山（⑫）。

⑫

◆　15：50　ロープウェイ前バス停・解散

5．所感

・6月の実技では読図の基本を学んだが、今回はその続きとして地形図に描かれた尾根や谷が実際の地形ではどうなっているのかということを確認しながら歩いた。今までは木々の緑の美しさに目を止めてはいたものの、地形は全く注意を払っていなかったので、特に登山道の横側に大きな谷が広がっているところでは驚きもあった。

・太尾道は直射日光が当たる場所が少なく、思ったより涼しかった。が、気温が高かったためか3時間程度の歩行（登り）でも疲れが出た。水分・行動食のとり方、歩き方など疲れないための対策を取る必要がある。

・体の調子が悪くなった場合の、エスケープルートの検討、応急処置の方法など学ぶことが多かった。計画や準備段階から起こり得る可能性を考慮しておくことの重要性を学んだ。

・初めての記録係ということで、前の晩緊張してよく眠れず、当日ぼんやりしてしまい、途中記憶をなくしたりシャッターチャンスを逃したりしてしまった。が、今回気づきや学びを言語化しようと努めたこと、山行の前後で地形図を何度も確認したことはいい経験となった。

・前回は体調不良で参加できなかったこともあり、講師からレクチャーを受け、他のメンバーと共に学びながらの山行はやはり楽しかった。

・最後に、笑顔で山行するためにも、顔ストレッチを忘れないことを次のストレッチ係への申し送り事項としたい。（記録・ストレッチ：戸田淑子）